

佐渡米通信

こめる

2021年 07 月号

発行日:2021年7月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部販売企画課 駒形・澁谷・渡辺(清)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

田んぼアート

田んぼアートの田植え交流회가5月15日に行われました。2017年から始まり今年で5回目となります。田植えには、地域の子供達や関係団体が参加し、初めて田植えをする人にとっては農業に関心をもつ良いきっかけになったのではないのでしょうか。

緊急事態宣言下で在宅時間が増え、食事にしっかり時間をかけられるようになったことで農作物に対する調理方法やトレーサビリティなど食への関心が増してきているといわれています。

JA佐渡の公式Facebook「佐渡のたんぼにつき」では米をメインとした佐渡の農作物についてどのように作られているのか、随時生育状況などの情報を発信しております。品質管理の疑問にお役立て出来ると思いますので是非ご活用ください。



今年のデザイン



絵柄に合わせて色の異なる苗を植えている様子

生育調査と中干し指導会

5月31日より生育調査が始まりました。今後は10日毎に行い、看板とSNSで農家に随時お知らせする予定です。一回目の調査結果から今年の中干しは移植後30日を目安に始めるのが適期と判断しました。また、6月2日から9日までの間、佐渡米未来プロジェクト「品質向上90」の中干し指導会が行われました。島内約100カ所の圃場で行われ、約700名の生産者が参加しました。

指導会では生育調査の結果も踏まえ、品質向上を目指して中干しの適期実施が呼びかけられました。

連休植えの
コシヒカリは
生育旺盛ですね!



苗の分けつを確認する指導員

指導内容を再確認できる様に、Youtubeの「JA佐渡営農指導チャンネル」で指導会の様子を配信しています。



中干し指導会



「生きものを育む農法」 畦畔に除草剤は使用しません!

6月に入り、田んぼでは畦の草刈りのほか、江(水場)に生えた草取りの作業が見られます。

佐渡では朱鷺と暮らす郷米の要件の一つとして「畦畔に除草剤を使わない」があり、緑の畦を維持することで生きものが棲みやすい環境をつくります。また、「生きものを育む農法」として「江の設置」を行います。田面を乾かす中干し時期でも、田んぼの生きものたちが江に避難することができ、トキの夏場における貴重な餌場を維持しています。



畦の草刈り

岩首昇竜棚田で田植え

岩首昇竜棚田で、アウトドア用品メーカーのsnowpeakが企画し、今年で4回目となる佐渡キャンプツアー「LOCAL WEAR TOURISM in SADO」で田植えが行われました。今年には更にUIターン者で結成された「棚田ガールズ」も田植えを行いました。

この地域は、海沿いの集落から標高350mを超える山間に460枚ほどの小さな田んぼが広がっています。岩首地域の米は、昼夜の温度差が大きく、山からの清水や湧水にも恵まれ、海から昇る朝日の光と海から吹く風の中でゆっくりと育まれます。



snowpeak圃場で田植えをするツアー参加者



棚田ガールズ



岩首昇竜棚田

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>

QRコードはこちら▶

